

## ⑥ 下水道資源の有効利用

下水道がもつ空間資源（管きよ、処理施設、緑地や増設予定地）や、下水処理水・下水汚泥などの有効利用、再生可能エネルギーの利活用を図り、経営基盤の強化や、循環型社会の形成に取り組んでいます。



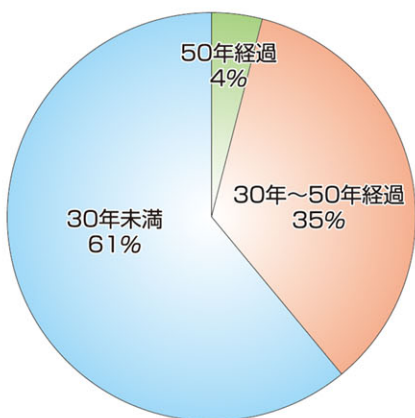
## ⑦ 施設整備から維持管理の時代へ

大阪府では、約560kmにおよぶ管きよや14箇所の下水処理場（水みらいセンター）など、非常に多くの下水道施設を抱えています。これらの多くは昭和40年代から平成10年代までに集中的に整備された施設であり、特に耐用年数が短い機械電気設備を中心とした老朽化が進んでいます。

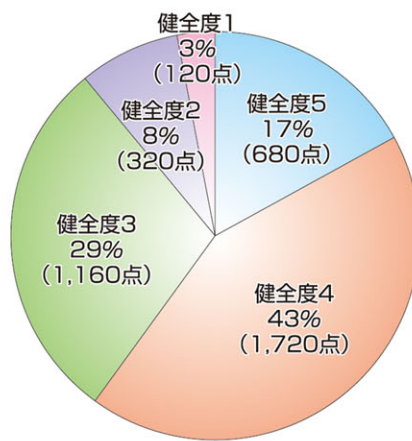
今後、施設の老朽化が進む中、改築更新に膨大な事業費が必要となることから、施設の状態を把握し効率的な維持管理に努め、改築の必要性や時期を総合的に判断し、計画的に更新事業を進めていきます。



・管きよの布設状況※1



・機械電気設備の健全度※2



中分類 約4,000設備  
 機械： 約2,400設備  
 電気： 約1,600設備



※1 一般的な管きよの標準耐用年数は50年です。

※2 健全度とは  
 施設の健全性を表す指標のことで、数字が小さいほど健全性が損なわれた状態を示し、健全度5が初期の健全な状態を表し、健全度1が緊急的に補修や改築等の対策が必要な状態を示します。